

特集

仕事を楽しむ

2013年度「discovery」の年間テーマは「楽しむ」笑ったり、熱中したり、何かに興味を持ちたり……。楽しむという心は人生にとっても大切。毎日がより楽しくなるような特集を皆さんにお届けしていきます。

第1回目にフォーカスするのは「仕事」。やりがいのあるプロジェクトも、単調に感じられる業務も、トータルで「楽しむ」ためにはどうすれば良いのでしょうか。仕事を楽しく心構えやこつ、具体的な実践方法を著名人や社員の方への取材を通して紹介します。

Part 1 濃縮ビジネスパーソンに聞く 仕事が楽しくなる秘訣

仕事を楽しむ秘訣は、仕事を楽しくしている人に聞いてみるのが一番。そこで、1+1ベンチャーの経営などを経て、現在ホテル事業を展開されている、サ・レジエント・ホテルズ&トラスト代表取締役CEO、鶴岡秀子さんにお話を伺いました。

仕事が楽しく「ステップしながら出社していた」ときもあるという鶴岡さん、どうすれば仕事を楽しめますか？



発想や捉え方を変えれば、仕事の楽しさもがらっと変わる！

お客さまのお役に立てることを

■ 今回の「discovery」の特集は「仕事を楽しむ」です。その中でも、ステートに伺ったのですが、鶴岡さんにとって仕事は楽しいですか？

■ もちろん楽しいです。楽しくない仕事、というものが理解できないくらいです。笑。仕事は父の影響もあり、ビジネスが好きなんで、サ・レジエントホテルに勤めていたころは、ステップを出社する日もありました。

■ それはすごいですね。なぜそこまで楽しんでるんですか？

■ やはり仕事を通じてお客さまの役に立てるのがうれしからなんです。自分が頑張ったことが誰かに喜んでもらえる、それが幸せだから仕事が好きなんです。お父は、お客さまから「ありがとう」と言ってもらいたく、その気持ちを大切にしています。原則の基準としてお父さまのビジネスのやり取りで自分のイメージはありますね。

失敗も、壁を乗り越える糧に

■ 構内 仕事で悩んだり落ち込んだりすることがあるに違いないと思いますが、鶴岡さんはそんな気持ちになることはありますか？

■ うまくいかないことがたくさんあります。構内、そういうときはどうやって克服されてるんですか？

■ 落ち込んでいる時期が続いてきたら、その時の状況を客観視してみたい。だいたい「あんなに悩んでるんだ」と一歩引いた視点から見ると、ある種面白い「ネタ」になるんです。そうすれば、自分ならこのピンチをどう乗り越えられると信じる力が湧いてきます。

■ 状況の捉え方を変える、ということですね。

■ そうなんです。本音を切り替えることが大事です。例えば、仕事で何か失敗をしたとしても、「これでいいんだ」と思えるように、自分自身を励ましてあげるといいと思います。



の成長の糧になる」と考えるかは、なる発想の違いに過ぎませんが、そこから早く壁を乗り越えたいなら、状況を手探りで捉えることが重要だと思います。

■ 他人が放ったおかない仕事

■ やりがい

■ 仕事にはプレジデントがつきもの、だと思いがちですが、鶴岡さんはどうやってその責任を乗り越えているのでしょうか？

■ プレジデントが大きい仕事は、誰かの役に立てる、価値ある仕事だ、というところから、その中で何らかの役目を果たせるのは、とても素晴らしいことだと思います。

■ 私は仕事には4つの段階がある



サ・レジエント・ホテルズ&トラスト株式会社 代表取締役 CEO 鶴岡 秀子 さん

大学卒業後、大手アパレル系企業に入社し1年間の営業勤務を経験。その後、外資系大手コンサルティングファームでコンサルティングを行う。2000年2月株式会社サ・イー・ブレイズを立ち上げる。コンサルティング会社経営を経て、2006年3月よりホテル経営を行っている。「人に元気を与えたい」と評判の講演は、各業界で幅広い支持を得ている。著書に『天国体験』(講談社)などがある。



と考えています。第1段階は、自分のためにする仕事で、それぞれライフワーク（好きなための仕事）、ライフワーク（好きな仕事）と呼んでいます。一方で第3、4段階は、他人から必要とされる仕事であり、ライフワーク（お客さまの役に立つ仕事）やライフワーク（天命といえる仕事）と呼んでいます。

横内 仕事の目的を、自分なのか他人なのかで分けるんですね。

田中 はい、他人が放っておかない仕事は、確かに苦悶も多いかもしれませんが、自分の仕事が必要とされる感覚は、他には替え難いものです。仕事をライフワーク、ライトワークだと意識してやりがいを感じてほしいと思います。これも「プレッシャー」から「やりがい」への発想の切り替えです。

「星」を見れば
お互いの距離が近くに

横内 当社の事業は、メーカーとお客さまの橋渡しをする仕事です。社外の方とコミュニケーションをとる際に、心掛けておくべきことは何ですか？

田中 お客さまを好きになろうとすることですね。相手に対する好感がなければ、コミュニケーションは深まっていきません。私の場合、「嫌いな人」というカテゴリーをつくらないようにしています。

徐 具体的にはどういうことでしょうか？

田中 それは、どんな人に対しても好きなところを探そうにするんです。よ、どんな人も「好き」になりますから、どんな人とも「好き」が見つけられます。

横内 会議では意見が対立する場面もしばしばありますが、お互いが気持ちよく仕事を進めていくためにはどうすれば良いのでしょうか？

田中 意見の対立は、ただ方法論の違いがあるだけで、本質は同じ目的を持っていると思うんです。意見が対立した時こそ、一緒に進むの星を見上げるように、お互いが同じ方向を向くことが大切。落ちついて、目的という「星」を見て話すようにすれば、意見が対立する者同士の間も近くに感じられますよ。

「楽しくない」という
イメージを捨てる

横内 仕事を楽しむためにライフスタイルの面で心掛けていることは何ですか？

田中 意外に思われるかもしれませんが、「感謝して稼ぐ」ことです。一日の最後に感謝することを意識していれば、どんなに小さな「ありがとう」でも、感謝すべきことに変わります。そうすると、一日はみんなに楽しかったんだと思えるようになりますよ。この習慣を続けていると、同僚のちょっとした気遣いの一言がとてもうれしく感じられるようになると思います。

徐 すぐにも実践できそうですね。最後に住商スタイルの社員にメッセージをお願いします。

田中 仕事が楽しいと思えるかどうかは、発想や捉え方の違いなど、感覚的な部分によるところが大きいと思います。もちろん仕事に対する考え方は人それぞれなので、無理をしてポジティブに考える必要はありませんが、仕事は楽しくないものというイメージに凝り固まってしまうのも良くありません。まずは「もし仕事を楽しいものだったら？」というイメージを膨らませてみてください。仕事の見え方が変わってきますよ。

アフタートーク

とても面白いお話でした。普段は一つの視点だけで考えがちですが、物事の捉え方を変え、いろいろな考え方を持つことが大切だと知りました。多角的な視点を持つことが、仕事の壁を乗り越える力になっていくと思います。(徐 嘉)



アフタートーク

銀岡さん自身がとても楽しくそうに話していて、こちらまで元気になってきました。貴方の違いで仕事に対する印象が変わるのであれば、やはり楽しい方に考えたいと思いましたわ。次のパートは、いよいよ実践！ 頑張ります。(横内 大輔)